

■ リバプール市の Record Office に眠るイギリス史の暗部

リバプールにおける奴隷貿易

Slave trade records from Liverpool, 1754-1792

大西洋奴隷貿易に関する記録をたどる

18世紀半ばから、リバプールはイギリスの大西洋奴隷貿易経済の発展において、主要な港として台頭しました。本コレクションは、奴隷制に関わったリバプール市の著名な人物や機関の文書を一か所にまとめることで、イギリス史のこの暗い時期に光を当てています。商人、奴隷船の所有者や船長、保険ブローカー、銀行家、そしてこの悪名高い商業活動に関連するその他の事業や商取引が収録されており、アフリカ西岸の現地商人との奴隷と物資の交換から、大西洋を横断する「中間航路」を航行する奴隷船船長への指示まで、大西洋奴隷貿易の多くの側面を網羅しています。



収録史料は、カリブ海各地で奴隷とされたアフリカ人の販売や支払われた価格についても多くの情報を提供しています。また、リバプールに送り返された植民地産品の記録も含まれており、人々を商品化することを推し進めた利益追求の動機について洞察を提供しています。リバプールは他の大西洋貿易ルートを中心でもあったため、主にニューオーリンズとリバプールの間で塩の取引を行った船主 James Brown の文書が補遺として含まれています。

かつては小さな村だったリバプールは、17世紀半ばに、イギリスが利益の大きい大西洋奴隷貿易に深く関わるようになったことで、発展が加速しました。マージー川沿いに位置するリバプールは、イギリスと新興植民地市場を結ぶ自然な結節点でした。18世紀末には、リバプールはイギリスの大西洋奴隷貿易の80%を占めるようになり、この期間を通じて、リバプールの船舶は100万人以上の奴隷を「新世界」へ移送しました。

この貴重な文書群は、18世紀中期から後期にかけての主要な港としての同市の発展と、その日々の経済的な機能について重要な洞察を提供しています。奴隷貿易に関わった人々が活動し搾取していた、地理的に広大な植民地貿易ネットワークを明らかにし、大西洋奴隷貿易の成長と経済を記録しています。さらに、特に経済面におけるイギリス帝国の発展についても重要な洞察を提供しています。実際、本コレクションは、奴隷制がイギリスの植民地拡大を支えていた実態を如実に示しています。

大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
Archive 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は**不要**です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:info@kyokuto-bk.co.jp





本コレクションには、奴隷貿易に関わった複数の商人—Thomas Case、Nicholas Southworth、Thomas Leyland、David Tuohy—の文書が収録されています。また、(主に塩を取引していた) James Brown の文書も補遺として含まれています。これらの文書は、大西洋奴隷貿易の廃止に向かう時期に光を当てると同時に、リバプールがいかにより多くの収益性の高い市場の中心であったか、についても洞察を与えます。本コレクションには、為替手形、請求書、会計帳簿、その他の財務文書など、大量の財務関係文書が収録されており、大西洋奴隷貿易に関わった主要人物による私信も多く収録されています。これらの文書は冷静かつ非情な性質を持ち、衝撃を与えるものです。それでもなお、これらの記録は、かつてイギリスの西インド植民地経済への関与が、投資家や商人にとって受け入れられ、非常に望ましい商業的機会であったことを思い出させます。

■5つのパートに整理されたアーカイブ

1. The Case and Southworth records

1754年から1769年にかけての記録で、ジャマイカのキングストンに支店を持つリバプールの商社「The Case and Southworth」の商業活動を示すものです。主にリバプール商人 Thomas Case と、奴隷貿易に従事した Nicholas Southworth の業績が記録されています。Thomas Case はリバプールで商船を複数所有し、奴隷貿易に積極的に関与しましたが、財政難で1778年に破産しました。Nicholas Southworth は奴隷船の船長や共同所有者を務め、キングストン支店を管理しましたが、Case とは直接的な船舶の共同所有はありませんでした。

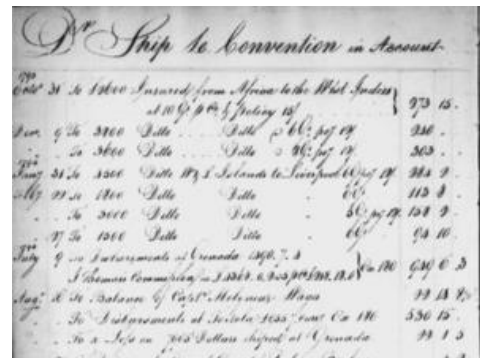
商業活動は、イギリスとアイルランドからの金物や織物の輸入、キングストンでの奴隷販売、リバプールへの砂糖やラム酒の輸入にわたり、ジャマイカ側の取引額がリバプールを大きく上回っていました。帳簿記録は非常に詳細で、奴隷販売に関する具体的なデータ(購入者、取引価格など)が含まれており、消費者行動や貿易パターンの分析に役立ちます。この記録は、イギリスの奴隷貿易におけるアフリカ人の販売に関する最も詳細な資料の一つとされています。



2. The Thomas Leyland records

Thomas Leyland (1752?-1827年)は、商人、銀行家、大富豪で、リバプール市長を3度務めました。彼は1766年の宝くじ当選金(2万ポンド)を事業拡大に活用し、特に奴隷貿易に積極的に関与しました。彼はリバプールからの69回の奴隷貿易航海に関与し、推定22,365人のアフリカ人をアメリカ大陸に送り込みました。

奴隷貿易においては、18世紀末に特に活発に活動し、他の商人や小規模な商人とも提携していました。銀行業においては、1802年に Clarke と Roscoe との銀行パートナーシップに参加し、1807年には甥とともに自身の銀行を設立。後にこの銀行はミッドランド銀行(現 HSBC)の一部となりました。彼は1827年に60万ポンドの遺産を残し、当時のイギリスで最も裕福な人物の一人でした。なお、本コレクションには収録されていませんが、Thomas Leyland の記録はリバプール大学図書館や HSBC のアーカイブに現存しており、奴隷貿易と経済活動の歴史的理解に重要な資料となっています。



3. The Tuohy papers

David Tuohy は、アフリカ貿易と奴隷貿易に 14 年間従事したアイルランド出身の商人で、1765 年から 1769 年の 4 回の奴隷貿易航海で船長を務め、その後 1772 年から 1786 年にかけて 10 隻のリバプール奴隷船の共同所有者となりました。1768 年にリバプールで結婚し、1771 年に定住。奴隷船の船長としての経験の後、彼はマージーサイドで商人として定着しました。1781 年の人名録ではオールド・ホール・ストリートの商人として記載されています。

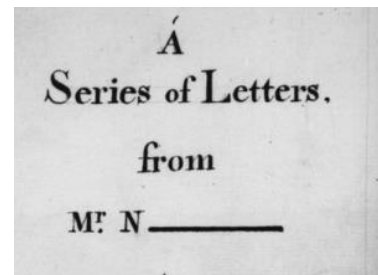
奴隷の三角貿易においては、ウィンドワード海岸、象牙海岸、黄金海岸、ベニン湾、特にアンゴラに船を送り、その後アフリカ人をジャマイカ、バルバドス、セントキッツ、アンティグア、ドミニカ、グレナダで売却をしていました。彼の書簡から、彼の商業活動は主にリバプールとアイルランド間の貿易(牛肉、バター、獣脂を輸入し、塩、ビール、チーズを輸出)と奴隷貿易に分かれていたことがわかります。1774 年のブリッグ・ナンシー号の航海では 6 分の 1 の持分を保有するなど(380 TUO/4/7)、他のパートナーと投資を分散できる航海に参加していました。

奴隷貿易航海ではリスクを分散するため、他のパートナーと共同投資を行っていました。彼はおそらく 1780 年代後半か 1790 年代初頭に死亡したと思われます。これらの文書で彼に言及されている最後のものは、1788 年 9 月付けの彼宛ての手紙です(380 TUO/6/4)。彼の文書は奴隷貿易やリバプール商業活動の詳細を記録しており、当時の貿易ネットワークを理解する上で貴重な資料です。



4. Miscellaneous documents from the Liverpool Record Office

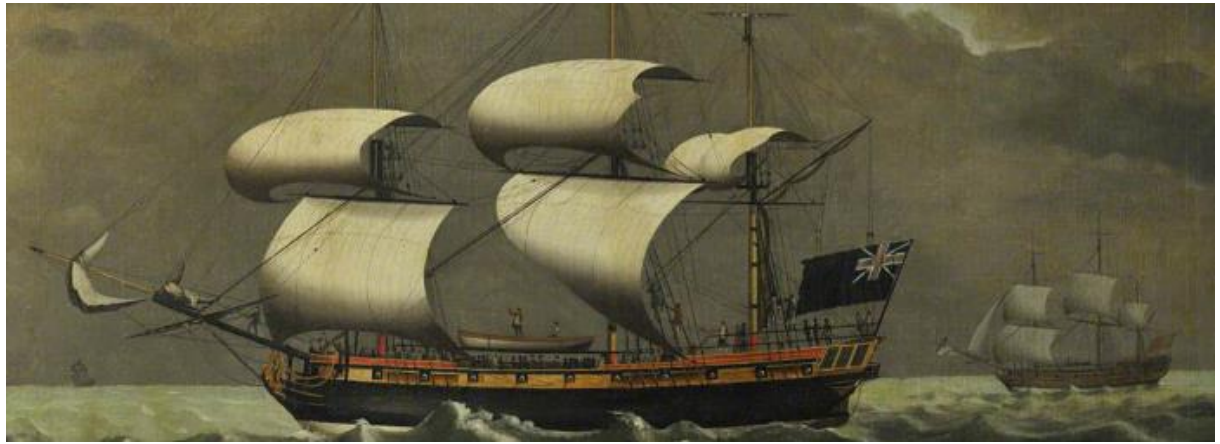
リバプールの奴隷貿易に関する興味深い追加詳細を含む、いくつかの小規模な資料が収録されています。



5. The James Brown papers, 1809-1898

リバプールの Record Office に所蔵されているこの小規模な補足コレクションは、奴隷貿易廃止後の時期、特に 1840 年代と 1850 年代初頭の James Brown(1807?-1851 年)の大西洋横断海運に関するものですが、同じ名前を持つ彼の父親と息子のもと思われる文書も若干含まれています。これらの文書はブラウン家が所有していましたが、1942 年 2 月 23 日に K. A. Brown 氏によってリバプール市立図書館に寄贈されました。元リバプール大学の John Rowe による解説が付されています。

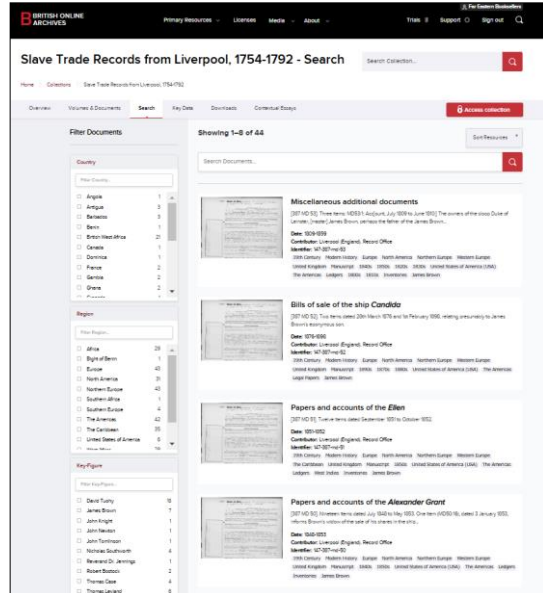
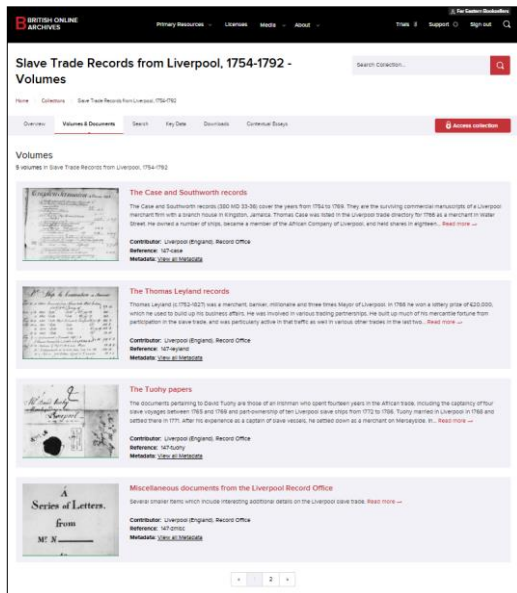




収録文書の大半がリバプールの
Record Office の所蔵資料です



本コレクションは貿易港としての
リバプールの商業的力量を示しています



British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp